

課題対応取組み報告書

名称	西成区成南地域総合相談窓口
提出日	令和 5 年 6 月 16 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☒ その他 (生活困窮)	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	生活困窮に陥った地域住民への支援	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①生活に困窮していても親戚や友人等頼る人がいなくて、健康及び栄養状態が悪い高齢者が多い。 ②高齢者世帯で生活が困窮していても、子供の生活も困窮していて、頼ることができない。 ③生活保護を受けていても、数日でお金を全部使ってしまう、生活困窮に陥る高齢者が多い。	
対象	認知症状が見受けられる高齢者や家族がいなかったり遠方在住の高齢者	
地域特性	① 長年地域で暮らしている住民が多く、顔なじみの関係が既にできている。 ② 長年地域で暮らしている高齢者は住民同士つながりがあり、積極的に地域行事に参加している。 ③ 全国から自己破産等生活に課題がある高齢者が転居してくる。	
活動目標	1 生活に困窮した高齢者に対する地域住民（民生委員）との協働 2 地域住民（民生委員）に生活自立相談支援窓口（はぎさぽーと）や生活保護相談窓口の周知活動	
活動内容 (具体的取組み)	【地域住民（民生委員）との訪問】 （ケース 1）80代後半 女性 令和4年6月 長女から地域包括支援センター（以下（包括）という）へ母親についての相談電話が入る。 本人認知症の症状が発症。同居していた次女は症状に耐えきれず家を出て行ってしまう。 食事が取れているかどうか等、生活に困窮している状況なのか確認してほしいという依頼を受けた。 総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）職員と包括職員で訪問することになったが、地域に長くお住まいなので民生委員の方にも同行を依頼。 民生委員の方が本人の母親を知っていたため安心されて、自宅に入ることもでき、情報収集が容易となった。 （ケース 2）80代前半 女性 令和4年8月 西成区役所生活保護受付面接官から包括へ相談。 「生活保護申請に來られた高齢者が、話が全然前に進まなくて困っているので来てほしい」という内容。 ランチ職員と包括職員で生活保護申請の支援を行うことになったが、地域の民生委員にも同席依頼。 民生委員という顔なじみの関係があったため、部屋への入室・預貯金の確認・アパートの契約確認が拒否なくでき、情報収集及び申請時の必要書類の準備に結びつくことができた。 【地域ケア会議 見えてきた課題のまとめ】 令和5年2月 内容：①成南地域の現状 ②生活自立相談支援窓口（はぎさぽーと）の紹介 ③生活保護制度の紹介 ④コロナ禍での成南地域生活保護申請の状況 ⑤今後の成南地域の支援について ★予定では民生委員3人の参加だったが、1月の民生委員会で地域ケア会議（見えてきた課題のまとめ）の開催案内を配布。当日、3人の追加参加があり、合計6人の民生委員の方が会議の参加となった。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1 地域の民生委員の方々との連携が推進。それが波及し、百歳体操や喫茶等地域活動にも広がりつつある。 2 ランチの周知活動が進み、区役所・生活自立相談支援窓口（はぎさぽーと）・民生委員・地域の介護事業所・病院・大家等、連携が図れるようになった。	
今後の課題	1 どのように、生活に困窮した高齢者の早期発見を行うか。 2 どのように、生活自立相談支援窓口（はぎさぽーと）や生活保護相談窓口の周知活動を行うか。 3 どのように、地域の支援者が地域の社会資源の情報収集を図るか。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月10日(月)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	地域のことをよく把握している民生委員と連携したことで、個別支援や地域活動に繋がったことは評価できる。 ランチが身近な相談窓口であることを地域住民に対しても周知され、地域活動の中で早期発見・支援につながることを期待します。

課題対応取組み報告書

名称	西成区梅南・橘総合相談窓口				
提出日	令和	5	年	6	月 20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒	地域や専門職とのつながり等	☒	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☒	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（		）
活動テーマ	「身近な集いの場の発展から、地域住民がつながるまちづくり」			
地域ケア会議から 見えてきた課題	・ひとり暮らしの高齢者が多い。特に男性で地域とのつながりが希薄な人が多い。 ・地域とのつながりが希薄であることから、日常生活に課題を抱えていても気づかれずに、状態がかなり悪化してから介入するケースが多い。 ・８０５０問題や老老介護など世帯で複合する課題を有するケースも多く、様々なアプローチが必要である。 ・新型コロナウイルス感染症予防による自粛生活が長期化した為、地域のつながりの場も長期に渡り活動が停滞した。結果としてコロナ禍前はつながり合っていた地域住民同士の関係も希薄になり、孤立化やフレイル状態に陥るなど地域全体として不活発な状態が顕著となる。			
対象	・圏域内地域住民			
地域特性	・昔から住まわれている住民が多い一方、新しく移られてきた住民も多い。 ・地域関係者の高齢化が課題である上に、町会の参加率も低下傾向にあり、次世代へのバトンタッチが難しくなっている。 ・高齢化率及びひとり暮らしの割合が高く一度閉じこもってしまうと、その後社会との接点を持つ事が難しくなる。			
活動目標	・感染予防に十分配慮しつつ、開催されている集いの場の継続支援。 ・地域のコミュニティーから疎遠となっている、男性の居場所づくり。 ・地域住民が気軽に集える新たな居場所創設を通じ、地域関係者との連携を強化して行く。 ・住民同士が見守り支え合う、地域づくりへの支援。			
活動内容 (具体的取組み)	○ 梅南地域での「おとこまえ」「いきいき」百歳体操 ・令和４年度より梅南地域での百歳体操は「おとこまえ」「いきいき」と２部制で、毎週水曜日の午前に開催してきました。 ・「おとこまえ百歳体操」は２年目を迎え、様々な課題を抱える男性の居場所として定着してきました。参加者間の信頼関係や連帯感も強まり、会場設営など役割分担も自然に行っています。 ・「いきいき百歳体操」は地域住民より集いの場の再開の要望を受け、自由に参加できる集いの場として７月より開催し、現在では毎回２５名前後が参加されています。 ・月に１～２回はヤクルト健康講座や地域で活動されているボランティアさんの演芸などイベントで、「おとこまえ」「いきいき」両参加者全員で楽しむ企画も行っています。 ・コロナ禍において中止されてきた梅南地域での花見大会が今年も中止となり残念との住民の声を受けて、町会役員と協働し３月２９日に松通り公園の桜の木の下で百歳体操を実施。町会役員や参加者全体で、来年はぜひ再開しようとの意見を出し合った。 ○ 松之宮地域での「スマイル」「気配りさんサミット」「百歳体操」 ・「スマイル」は自由な居場所として松之宮地域で毎週１回開催されています。開催継続にあたり、ネットワーク委員会・北西部地域包括支援センター（以下「包括」という）・生活支援コーディネーターと総合相談（ランチ）（以下「ランチ」という）も協働してきました。ゆったりとした集いの時間に加えて、消費者問題講座や健康講座、地域で活動されているボランティアさん等多彩な人材をランチや包括、生活支援コーディネーターより紹介し、「スマイル」の内容充実に貢献してきました。 ・「気配りさんサミット」はスマイルの場をお借りして北西部包括が取り組んでいる、地域でのゆるい見守り活動である気配りさんの意見交換会です。令和４年度はテーマを地域の防災活動とし４回取り組みました。避難先である元松之宮小学校の現状見学から、避難訓練・避難所開設レアウトグループワークなど取り組む事が出来ました。 ・「松之宮地域百歳体操」は会館にテレビが無い事情もあり、ランチ・包括・生活支援コーディネーターとで協力し、体操や脳トレのリーダーを役割分担し実施してきました。また会場設営や後片付け、重りの消毒など参加者自身で協働し行ってきました。			

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○梅南地域での「おとこまえ」「いきいき」百歳体操 ・「おとこまえ」「いきいき」どちらの参加者からも「運動する習慣がついた事により、外出する事が増えた」、「ここ3年間鬱々とした毎日を過ごしていたが、ここに来る様になってから前向きに過ごしていける様になった」、「しばらく会えていなかった友人に会えるようになった」等元気な声を寄せてもらっています。糖尿病が悪化していたが、運動と食事療法のきっかけとなった男性もいます。また、町会の役員も数人参加しており、体操の場がちょっとした意見交換の場ともなり、地域活動の活性化に繋がっているとの感想も寄せられています。 ・はぎのさと別館での取組みが、地域に浸透して行くと共にランチの周知も進んできました。結果として来所での相談件数の増加に繋がったと考えています。 ○松之宮地域での「スマイル」「気配りさんサミット」「百歳体操」 ・「スマイル」では参加者の近況交換等おしゃべりタイムに加えて、多彩な取り組みを行う事により「楽しみのある時間を過ごしています」や「日常生活のリズムがつく」等の感想を聞きます。またデイサービスに行く程ではないが、少し閉じこもりがちになっている人への参加呼びかけの場ともなっています。 ・「気配りさんサミット」では防災をテーマとして取組み、防災講座や避難訓練、避難所である元小学校の見学、避難所レイアウトのグループワークを実施。結果として住民の防災意識の向上につながり、毎回多数の参加者を迎えました。またランチ・包括の提案にて、地域の社会資源であるケアマネジャーを始めとする介護事業所へも参加を呼び掛けた。地域と介護事業所との顔の見える関係づくりのきっかけとなった。 ・「百歳体操」では筋力運動に加えて、独自に体幹や股関節部の運動能力向上に向けたプログラムを実施。参加者より「毎週行っている事により、身体機能が向上し毎日の生活に活気が持てる」と喜ばれています。 ・どの取組みにおいても会場設営や後片付けなど、参加者自身が積極的に役割を果たしています。欠席の続いた人などへの、声掛けなども行っています。また令和4年度は男性の参加者が増え、常時5名程度参加されています。 ○「身近な集いの場の発展」に向けランチも協働して行く中で、総合相談窓口としても役割も浸透し、相談件数の増加に繋がりました。
今後の課題	○地域では高齢化が顕著で有り、地域活動の担い手も高齢化に拍車がかかっている。一部の役員に負担がかかっている現実が改善できないままであり、新たな担い手の発掘育成が急務である。令和5年度は世代間交流へ向けた取り組みを手掛けて行く事が求められる。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月10日(月)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	おとこまえ百歳体操の継続に加え、地域からの要望を受け、いきいき百歳体操の開催や健康講座を企画するなど町会役員との協働ができており、地域の活性化につながっていることは高く評価できる。

課題対応取組み報告書

名称	西成区南津守地域総合相談窓口
提出日	令和 5 年 6 月 20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域で孤立しやすい高齢者世帯への支援体制の構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域より何処に相談したらいいかわからない、分かりにくいとの声があった。 相談機関の周知がまだまだ出ていないので、地域の関係者と顔の見える関係を作りをしていく事により、早期発見・対応が出来るような仕組みづくりに繋がる。 特に市営住宅は自治会組織が機能している事もあり、気になる世帯や事例を抱え込みやすい課題があると思われた。	
対象	町会長、自治会長、地域住民	
地域特性	南津守地域は南北に長く、工場跡地にファミリー向けの建売住宅が増えた事で、年少人口の増加も見られる。 ただ北部・中央部に市営住宅、南部にはワンルームマンションが多く、そこでの居住者はひとり暮らしの高齢者や、高齢者世帯の転入が多く、地域との交流が希薄で孤立化が目立つ。	
活動目標	課題を抱えた世帯の早期発見が出来るような相談支援体制の構築	
活動内容 (具体的取組み)	町会長、地域包括支援センター (以下「包括」という)、見守り相談室、生活支援コーディネーターと課題を抱えた世帯の早期発見と見守り体制について地域ケア会議を開催。 また自治会の班長会議に、包括や見守り相談室と一緒に参加させてもらい、住民の声を直接聞く事ができた。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	自治会長や地域の方からの総合相談が入るようになり、相談件数の増加に繋がった。 高齢者に該当しないが、気になる住民の相談には見守り相談室とも連携し、早期の介入に繋がった。 また、生活支援コーディネーターの協力もあり、市営住宅での集会場を利用した住民同士の集いの場が再開された。	
今後の課題	住民の方は身近な町会長や自治会長に相談をされている。 町会長や自治会長と同様に相談してもらえるように、繋がり作りをしていき、総合相談窓口 (ランチ) (以下「ランチ」という) の周知をしていく必要がある。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月10日(月)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	町会長とケア会議を開催したことや自治会の班長会議に出席したことから、地域からの相談件数が増加したことは評価できる。 ついこの場が再開されたことで、地域住民へのランチの周知の場とし、今後も地域の町会長や自治会長はじめ、地域住民からの相談が増えることを期待します。	

課題対応取組み報告書

名称	西成区あいりん総合相談窓口
提出日	令和 5 年 5 月 24 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	ひとり暮らし高齢者の居場所づくり・健康への意識付け	
地域ケア会議から 見えてきた課題	あいりん地域は、ひとり暮らしの高齢者が多く、地域とのつながりや親族関係が希薄である。 毎日することが無いと、アルコールやギャンブル等に依存する人も多くいため、自身の健康への意識付けや地域の居場所づくりが必要	
対象	あいりん地域住民	
地域特性	あいりん地域は、ひとり暮らし男性高齢者の生活保護受給者や、低年金受給者が多い。 その住まいは簡易宿泊所転用型が多く、管理や支援、住環境が整っていない。 また、家族とのつながりや地域での人間関係は希薄で、アルコールやギャンブルに依存し、孤独な生活を送る人が多い。	
活動目標	毎週木曜日15:00から西成市民館にて百歳体操を実施し、地域の居場所づくり、つながり強化、高齢者の健康増進を目指す	
活動内容 (具体的取組み)	令和4年8月の百歳体操開始時には区保健福祉センター保健師や社会福祉協議会と連携し、講師派遣を依頼した。 講師による百歳体操の指導を経て、主催者だけの開催となった。 3か月後には講師による体力測定も実施され、参加者のモチベーション維持にもつながった。 毎月第1木曜日には、参加者自身が健康に意識を向けられるように、体重測定を実施している。 百歳体操のおもりを重くしていく人や、他地域の百歳体操にも参加しながら毎日百歳体操に参加している人など、健康に気を配る人も増えてきた。 毎週水曜日にラジオ体操も実施しており、ラジオ体操参加者へも百歳体操の参加勧奨を行っている。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	8月から9月の上半期2か月の参加延べ数93人、10月から3月の下半期の参加延べ人数は253人、合計346人であり、地域の居場所として、ラジオ体操、百歳体操が少しずつ根付いてきている。 毎月体重測定を実施することで、先月より増えた、減ったと自身の体重に気を配るようになっている。 社会福祉協議会との連携においては、百歳体操後にポッチャを不定期開催しており、令和5年度にはポッチャの定期開催へ向けて計画している。	
今後の課題	百歳体操を知らない方へのアプローチや、総合相談窓口（ランチ）と関わりがあっても百歳体操には参加していない方への健康への意識づけ等が必要	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月10日(月)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント	ラジオ体操や百歳体操が居場所として根付いてきていることや、体重測定をきっかけとして健康へ意識付けをしたことは高く評価できる。 この居場所から様々な情報発信の機会になることを期待します。	
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		